

坂口っ子の「国語」・「算数」の力と学習の様子

～『令和5年全国学力・学習状況調査(2023.4.18 6年生が実施)』の結果から～

★今年度は、国語・算数の調査が行われました。どの教科にも、学校での授業の工夫や家庭での学習支援の効果が表れています。(◎は良いところ、▲は伸ばしたいところ)

★国語について

①『学習指導要領の5つの内容における結果から』

◎「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の5つの内容のうち、「話すこと・聞くこと」が他の内容に比べ良好だと言えます。必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える力が身についています。これは、日々の授業や学校生活において、一人一人が目的をもって話す場面が多く設定され、自分の考えを相手に分かりやすく伝えることを意識して話す活動に、意欲的に取り組んでいることが成果に表れています。また、話の内容を理解しようと、しっかり聞く態度も身につけていることが結果に表れています。

②『課題として』

▲「書くこと」の内容に課題があります。図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるという設問で課題が見られました。記述する場面で、伝えたいことを明確にし、わかりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいか考える活動を行う必要があります。

これからは 説明文の学習で、キーワードを確認したり、要約する活動を取り入れたりしながら、内容を読み取る力をつけるとともに、大事なことを落とさず、目的に合った文章の構成や展開を考えたり、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけたりする活動に、より一層重視して取り組みます。また、各学年の教科書巻末に記載されている「言葉の宝箱」を活用しながら、考えたことや伝えたいことをわかりやすく表現できる児童の育成に努めます。国語科だけでなく、他の教科においても資料からわかることを話し合ったり、読み取れたことをもとに自分の考えを述べたりする活動を取り入れ、書く力の向上につなげていきます。国語は、他の学習の基本ともなります。授業だけではなく、朝読書・読み聞かせ・家庭読書等の読書活動を推進し、感想を書いたり伝え合ったりすることで言語活動の充実を図ります。自分の考えを持つ習慣を育てるためにも、ご家庭でも、家庭読書などで、家族で読んだ本の内容について感想を話し合う場面を是非設けてください。

★算数について

①『学習指導要領の4領域における結果から』

◎4領域「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」のうち、「数と計算」「変化と関係」の2つが他の領域に比べ良好で、特に「知識・技能」に分類される問題は正答率が高いといえます。

②『特に正答率の高かった問題』

◎「数と計算」において、割り算の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を判断する問題がよくできています。また「変化と関係」において、百分率で表された割合の意味を説明する問題がよくできています。これは、日頃の学習において、振り返り活動をしっかり行うことで、基礎基本の徹底を図ってきた成果が出ています。今後も基礎学力の定着を図れるよう努めます。

③『課題として』

▲「図形」において、高さが等しい異なる形の三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られました。

▲「データの活用」において、複数のグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述するという事に課題が見られました。

これからは 基礎基本を丁寧に学習しながら、課題を明確にし、目的意識をもって問題解決していく授業に努めます。また、自分の考えを根拠や解き方の筋道を明らかにして友達に分かりやすく説明するなど、言葉を使って説明できる力を養っていきます。さらに、ipadを活用することで、時間の効率化を図り、対話する時間を増やして、自分の考えを述べたり、友達の考えを聞いたりする授業展開に心がけます。

★学習や生活について

《家庭や地域に関すること》

◎「地域の行事に参加しているか」「地域や社会をよくするために何かしたいと思うか」という問いに対し、全員が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えています。家庭や地域の人としっかり関わる中で、ふるさとに対する愛情を育むことができているといえます。

▲平日および土日など休日の家庭での学習時間が少ない、読書したり新聞を読んだりする時間が少ないと答える児童もいることが分かりました。今後は学校でも、家庭学習の取り組み方の指導や、読書推進活動を進めていきます。

《自分自身に関すること》

◎「毎日朝食をとっているか」「同じくらいの時刻に寝たり、起きたりしているか」という問いに対し、全員が「している・どちらかといえばしている」と答えています。このことから、基本的な生活習慣が身に付いているといえます。また、「人が困っているときは、進んで助けているか」「人の役に立つ人間になりたいと思うか」という問いに対し、全員が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えています。このことから、本校の児童は、周りの友達を大切に、自己肯定感の高い児童が多いといえます。

▲「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」という問いに対し、相談できると答えた児童が少ないことが分かりました。今後も、心のアンケートや教育相談活動を定期的に行うとともに、相談しやすい人間関係づくりに努めていきます。

《学校や学習に関すること》

◎「国語や算数の勉強は大切だと思うか」「国語や算数の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思うか」という問いに対し、全員が「当てはまる」と答えています。このことから、将来を見据えて、意欲的に学びに取り組んでいると言えます。

◎「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」という問いに対し、全員が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と答えています。このことから、授業に積極的に取り組み、友だちと協働して学習に取り組みたいという意欲があることが分かります。

▲越前市では、家庭学習においても、ICT 機器の活用を推奨しています。本校では、家庭での活用はまだこれからの課題で、2学期以降 iPad の持ち帰りを進め、家庭での活用も推進していきます。